

## 平成 28 年第 2 回区づくり推進横浜市会議員会議（緑区）議事録

開催日時	平成 28 年 6 月 21 日 午後 4 時 00 分 ～ 午後 4 時 45 分
場 所	緑区役所 会議室 3 A
出席者	<p>【座 長】伊藤 大貴 議員</p> <p>【議員：3 名】今野 典人 議員、斉藤 達也 議員、高橋 正治 議員</p> <p>【緑区：30 名】名取 正彦 区長</p> <p>林 昭宏 副区長</p> <p>小口 秀明 福祉保健センター長</p> <p>南 有里 福祉保健センター担当部長</p> <p>関戸 義仁 土木事務所長 ほか区関係職員</p>
議 題	<p>1 平成 28 年度 緑区運営方針</p> <p>2 緑区に係る予算のすがた（平成 28 年度一般会計予算）</p> <p>3 平成 28 年度 個性ある区づくり推進費 執行状況</p>
発言の旨	<p><b>1 平成 28 年度 緑区運営方針</b></p> <p>（区長説明）</p> <p>斉藤議員：平成 31 年に迎える区制 50 周年の企画を、今後 3 年かけてどのように進めていくのか。</p> <p>名取区長：今年度は、職員から手を挙げてもらい、プロジェクトを立ち上げようと思っています。この中で、50 周年を機に始める新たな取組のアイデア出しや課題の整理、また、3 年後に向けて盛り上げるためのプロモーションの企画検討を行い、区民の皆様と相談しながら、区民まつりあたりからプロモーションを開始していきたいと考えています。</p> <p>斉藤議員：職員、区民の思いを大事に、いろいろな方が参加できる仕組みにしてほしい。新たな取組については、思い出となる継続するような企画があってもよい。全国都市緑化よこはまフェアとうまく繋げられるとよい。各区の取組一覧をみると、緑区の取組は 3 本くらいで、ゲートタウンとしては少ない。緑区ならばこそ、もう少し具体的に、いろいろな緑の切り口を植樹などを含めて検討してほしい。</p> <p>次に、緑区遺産については、登録件数を現在の 8 か所から 50 か所にするくらいの意気込みで取り組んでほしい。地元住民にとっては当たり前でも実は大変価値のある史跡などの見どころがいろいろあるので、区が積極的に働きかけ、申請の資料作りもぜひサポートしてもらいたい。</p>

## 2 緑区に係る予算のすがた（平成 28 年度一般会計予算）

（区長説明）

## 3 平成 28 年度 個性ある区づくり推進費 執行状況

（区長、副区長説明）

### 【3 交通安全対策事業】

齊藤議員：放置自転車対策の件で、緑区は働く世代の増加に対して駅前が狭く、特に長津田駅南口の駐輪場は満車である。北口には大きい駐輪場があるが、南口側の人は利用しないので、定期利用の申込みが半年待ちの状況の中、放置台数がますます増えていく。中山駅南口でも、再開発事業予定地の地主所有の土地に自転車が溢れ、通行人やバス・タクシー事業者、商店街からも懸念の声が上がっている。中山駅南口も駐輪場は足りないのか。

桐山土木事務所副所長：毎年、道路局で放置自転車の台数を調べていますが、中山駅周辺で 45 台と実態としては多くない状況です。ただし、スペースができると駐輪に使われがちです。

齊藤議員：中山の当該地の駐輪は早い者勝ちで、自転車が外にはみ出し歩行者が膨らむとタクシーとの接触事故の危険性もあり、何らかの対策が望まれる。地主の土地ということだが、区役所がとれる対策はあるのか。

鶉田区政推進課長：問題の場所は、まちづくり協議地区となっており、建物を建てる際は道路際から 1.5 メートル下げて建てることで、歩行者空間を確保することになっています。しかし、そこが自転車で埋まってしまうことは趣旨に反するため、現在、都市整備局から地主さんにお問い合わせするとともに、管理会社とも相談しようと考えております。

齊藤議員：玄関口としてせっかくきれいになったので、犯罪を誘発しないためにも都市整備局と連携して対応してほしい。

### 【20 困難を抱える家庭の児童への支援事業】

齊藤議員：緑区で困難を抱える方が増える中、犯罪に向かわないよう、その家庭環境や、社会との関わりに目を向けていかなければいけないが、区としては学習支援を行っていくのか。

小田生活支援課長：区では、寄り添い型学習支援の関連事業として、区民、大学生などの小中学生支援ボランティアを育成する事業を行っています。

	<p>齊藤議員：例えば、区内には、外国人の子どもが増え、授業についていけずNPO等が学習支援を行っているというのを聞く。区のボランティア養成では、どういう範囲を対象としているのか。</p> <p>南センター担当部長：区のボランティア養成講座は、教え方のノウハウではなく、生活保護や生活困窮世帯で学習の機会を得られない中、学習姿勢が身に付いていないお子さんへの対応の仕方を学ぶ内容です。外国人のお子さんについては、生活困窮世帯であれば学習支援の対象に入る可能性もありますが、焦点を絞るかについては、今後の課題とっております。</p> <p>齊藤議員：いずれにしても大事な分野なので、今後も進めてほしい。</p> <p>伊藤議員：生活困窮とは、どこまでが対象か教えてほしい。</p> <p>小田生活支援課長：寄り添い型学習支援事業は、主に経済的要因により生活に困っている世帯を対象とする制度なので、区では、それに準じた形で考えております。まだ詳細に範囲を絞っていませんが、生活保護世帯及び就学援助等の対象世帯を想定しております。今後は、どのような方のニーズに答える必要があるのかを考えながら実施していきたいと思っております。</p> <p>伊藤議員：昔は衣服の汚れや臭いなどから貧困が分かったが、今はいじめられないように、まず食べ物などを削るので、学校でも貧困が捉えにくくなっていると聞いた。こども青少年局や健康福祉局などがいろいろな支援メニューを持つ中で、貧困について重層的に見ていかないと対象を拾いきれないので大事なテーマだと思っている。経済格差と教育格差はリンクしているので、限られた予算の中で難しいが、福祉保健センターとして意識してほしい。</p> <p><b>【23 みどり！まると応援事業】</b></p> <p>齊藤議員：とれたてみどり地産地消推進事業で、区庁舎直売所の運営法人が「NPO 法人ふかふか」に変更したのは、何か理由があったのか。</p> <p>鵜田区政推進課長：これまで運営していた「さら」が、事業規模を縮小したため、今年度は実施できないということで、新たに公募いたしました。</p> <p>齊藤議員：新しい運営団体が、地元の法人で良かったと思っている。</p>
<p>備考</p>	<p>(資料)</p> <p>平成 28 年第 2 回区づくり推進横浜市議員会議 (緑区) 次第</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成 28 年度 緑区運営方針</li> <li>2 緑区に係る予算のすがた (平成 28 年度一般会計予算)</li> <li>3 平成 28 年度 個性ある区づくり推進費 執行状況</li> </ol>